

教科等研究会（小学校音楽部会）

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」

（仮説）音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日 6/6	人数 17名	場所 甲佐小	期日 8/2	場所 甲佐小 より Zoom配 信	研修会 (講話)	期日 10/20	場所 滝尾小	授業者 濱本美樹 先生	期日 1/23	場所 広安小	授業者 坂本久美子 先生

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 本部会の研究テーマの考察

学習指導要領には、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する際の留意事項として、「他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見出したりするなど」と記されている。これは、改訂の基本的な考え方の一つであり、これまでも大切にされてきたことである。さらに、その文言に続く「思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること」は、現行学習指導要領のポイントである。主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点から授業改善を図ることで、これまで大切に積み重ねられてきた学習や指導方法を継承し、さらに質的に充実させることが重要であると考え。そこで本年も研究の軸を大きく変えずに取り組むことにした。

「音楽のよさを感じ取る」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化と関連付けることである。学習指導要領の中でも、これらを「音楽的な見方・考え方」を働かせることと位置づけ、この見方・考え方を通して、音楽科の資質・能力を育成するものと明記されている。

「思いや願いをもって表現する」とは、思いや意図をもち、それを実現するために必要となる知識や技能を習得して、歌ったり演奏したりするということである。また、主体的に他者と協働する中で自分の考えをより深めたり再構築したりしながら豊かに表現することは、「生き生きと表現する」姿であると考え。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みをもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの育成を目指した。

② 研究の実際

ア 夏季研修会

「コロナ禍における音楽科の授業づくりについて」

講師：平成音楽大学 岩山 恵美子 教授

新型コロナ感染症をはじめ、予測困難な社会の変化にどのようにして対応していくか、具体的な事例を挙げながらお話しいただいた。society 5.0を生き抜いていかなければならない子ども達に必要な「人間の強み」とは何か、強みの一つである感性を音楽科の授業を通してどのようにして育てていくのかがわかった。また、音楽科における現代的な諸問題に関する教科横断的な教育内容として、伝統や文化に関する教育、知的財産に関する教育の例を紹介いただいた。深い学びの充実のための授業改善のポイントの解説もしていただき、具体的な子どもの姿をイメージしながら改善を図っていく必要があるがわかった。

イ 研究授業① 第2学年「くりかえしを見つけよう 『おまつりの音楽』」

指導者 御船町立滝尾小学校 濱本 美樹 先生

太鼓の口唱歌やリズムカードを活用して、反復を使ったリズムづくりをすることをねらいとした学習であった。どんなおまつりの音楽にしたいかというイメージをもってリズムづくりに臨み、実際に太鼓でリズム打ちをして確かめることで、児童はくりかえしのよさに気づくことができていた。くりかえしのよさについて、自分なりの考えをもち、それを言葉にして伝えあう姿があった。

ウ 研究授業② 第5学年「詩と音楽の関わりを味わおう 『待ちぼうけ』」

指導者 益城町立広安小学校 坂本 久美子 先生

楽曲の情景や心情の変化を味わい、そこから想像したことを思いや意図をもって創造的に歌唱表現することをねらった学習であった。児童はグループごとに、歌詞から想像したことを速度、強弱などの音楽の要素を工夫することで表し、身体表現も交えながら楽しんで歌唱表現できていた。児童が「待ちぼうけ物語」の主人公に感情移入するための工夫、「○○なp」「○○なf」など単なる強弱記号ではなく、そこにも感情をのせる工夫など、指導者による仕掛けが随所に見られた。

(2) 成果と課題

(成果)

- 授業研が2回できてよかった。
- 授業実践がすばらしかった。専科の先生の授業は見る機会が少なく貴重だった。
- 授業を見るだけで充分自分自身の学びとなった。
- 学びや思考があってこそ、楽しい授業となることがわかった。

(課題)

- 会員が少ないので、授業者を決めるのが難しい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第2学年「くりかえしを見つけよう 『おまつりの音楽』」

指導者 御船町立滝尾小学校 濱本 美樹 先生

(授業研究会より)

- 「どんなおまつり、音楽にしたい」という視点を持たせたのがよかった。
- リズムカードが色分けしてあり、視覚的にも「くりかえし」が分かりやすくよかった。
- 太鼓をたたきながら、たたきやすいリズムに作り変える児童がいたが、そこにもしっかり理由があることに驚いた。
- 子どものつぶやきの中の「同じ音」という表現を「同じリズムね」と、要素に結び付けて言い直されたり、ていねいな問い返しをされていたりしたのが勉強になった。

(2) 学習構想案 (抜粋)

1 題材構想

題材の目標	(1)旋律やリズムの特徴とその反復などと曲想との関わりに気付き、声の出し方に気を付けて歌ったり反復を用いてリズムを作ったりする技能を身に付ける。 <知識及び技能> A(1)イ、ウ(イ)(ウ) (3)ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ) Bイ (2)旋律やリズムが反復するよさや面白さを生かして、歌い方やリズムの組み合わせ方について思いをもったり、それを基に曲全体を味わって聴いたりする。 <思考力・判断力・表現力> A(1)ア、B(1)ア (3)友達の考えを聞きながら、旋律やリズムの反復に着目して表現したり音楽を聴いたりする学習に楽しんで取り組む。 <学びに向かう力、人間性>		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	①曲想と歌詞の表す情景や旋律の反復、強弱、音の重なりなどとの関わりに気付き、互いの歌声を聴きながら声を合わせて歌う技能を身に	①旋律やその反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、声の出し方や強弱などを工夫し、どのように	①友達の考えを聞きながら、曲想と反復との関わりに興味・関心をもって歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。

	付けて歌っている。 ②リズムとそのつなげ方の特徴に気付き、反復を用いてリズムをつくる技能を身に付けてつくっている。 ③曲想と二つの旋律の特徴やその反復との関わりに気付いている。	歌うかについて思いを持っている。 ②リズムが反復するよさや面白さを生かして、リズムのつなげ方を工夫し、どのような「おまつりの音楽」にするかについて思いをもっている。 ③旋律の反復や強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見出し、体を動かすなどして味わって聴いている。	②リズムの反復に着目して音楽をつくる学習に、友達と協働しながら楽しんで取り組み、反復を用いて簡単な音楽をつくることへの興味・関心を広げようとしている。 ③挙手をしたり友達の考えを聞いたりしながら、旋律の反復を曲想との関わりを意識して音楽を聴く学習に、楽しんで取り組もうとしている。
--	--	--	---

題材終了時の児童の姿（題材のゴールの姿・期待される姿）

旋律やリズムが反復するよさや面白さに気付き、それらを生かして歌ったり演奏したりしようとする児童

題材を通した学習課題（題材の中心的な学習課題）	本題材で働かせる見方・考え方
反復するよさを生かしたお祭りの音楽を作って、おもちゃフェスティバルで1年生に聴いてもらおう。	音楽に対する感性を働かせ、旋律の反復や強弱とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などと関連付けること。

2 題材における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）
小学校学習指導要領の第1学年及び第2学年 [思考力・判断力・表現力等] A 表現(1)ア、B 鑑賞(1)ア、[共通事項] (1)ア [知識及び技能] A 表現(1)イ、ウ(イ)(ウ) (3)ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ) B 鑑賞イ
教材・題材等の価値
歌唱教材「かねがなる」では、手を上下に動かして音の高さに気を付けながら歌ったり、鐘の青を表す擬音語で歌ったりして、短い旋律が反復されてできている曲であることに気付くことができる。 音楽づくりの教材「おまつりの音楽」では、太鼓の口唱歌やリズムカードを活用して、反復を使ったリズムづくりが分かりやすい教材である。 鑑賞教材「トルコ行進曲」は、これらの表現教材と関連させながら、二つの旋律がそれぞれ繰り返される面白さに注目しながら音楽を聴き、曲のよさを感じ取ることができる。

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

「音楽のよさを感じ取り、いきいきと表現できる子どもの育成」

（仮説）音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

- 「反復のある」歌を歌ったり、リズムを打ったり、鑑賞したりする活動を系統的に行うことで、「反復」という音楽の仕組みのよさに気付くことができる。
- 歌唱教材では、旋律の反復を、図形楽譜を指でなぞりながら、音と視覚で確認するようにする。
- お祭りの音楽づくりでは、まず、口唱歌によるリズム唱で、6つの太鼓のリズムに慣れさせ、リズム打ちをすることで、正確にリズムを打てるようにする。
- 反復のあるリズムと反復のないリズムを比較することで、反復を用いるとまとまりのある音楽になるという音楽の仕組みのよさに気付かせたい。
- 色分けしたリズムカードを並べ、リズムづくりをすることで、「反復」を視覚的に確認できるようにする。

3 本時の学習

(1) 目標

どのような「おまつりの音楽」にするかについて考え、リズムが反復するよさや面白さを生かして、8拍のリズムをつくることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①どんなおまつりの音楽ができたらいいか考える。</p> <p>◇たのしいおまつり</p> <p>◇おどっているおまつり</p> <p>②「くりかえし」のよさを考える。</p> <p>◇「くりかえし」があると、うちやすいね。</p> <p>◇すっきりしてるね。</p>	<p>○題材を通した学習課題を確認し、本時の課題と結び付けさせる。</p> <p>(「問い」を生み出す手立て等)</p> <p>○既習のリズム譜から、反復があるよさについて、気付かせる。</p>
		<p>【めあて】 「くりかえし」のあるリズムを組み合わせ、「〇〇のお祭りの音楽」をつくらう。</p>	
		<p>【学習課題】 6つのリズムの中から、「くりかえし」を用いて、8拍のリズムをつくらう。</p>	<p>(見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け)</p> <p>○6つのリズムの違いを口唱歌によるリズム唱とリズム打ちで確かめる。</p> <p>○くりかえしの例を示し、リズムづくりの見通しをもたせる。</p>
展開	30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①どんなお祭りの音楽にするかを確認、リズムづくりをする。</p> <p>◇どのリズムをくりかえそうかな。</p> <p>◇〇〇なおまつりに合うな。</p> <p>②つくった8拍のリズムをPCで聴いて確認した後、リズム打ちの練習をする。</p> <p>◇つなぐところがむずかしいな。</p> <p>◇同じリズムがあると打ちやすい。</p> <p>③つくった8拍のリズムをグループで、紹介し合う。</p>	<p>(課題解決に向けた見通しを持つ手立て)</p> <p>○色分けしたリズムカードを並べることで、反復のリズムが視覚化できるようにする。</p> <p>○口唱歌を唱えながらリズム打ちをしたり、手拍子をしたりして、自分のリズムを確かめるようにする。</p> <p>(個に応じた支援)</p> <p>○つくったリズムが音でわかるように、ICTを活用する。</p>
		<p>【期待される学びの姿】 反復のリズムのよさに気づき、8拍のリズムを選んで、「お祭りの音楽」を表している。</p>	<p>(言語活動の設定及び設定の意図)</p> <p>○選んだリズムを伝え合うことで、「〇〇のお祭りの音楽」に対する思いを広めるようにする。</p>
			<p>【具体的評価規準】技② ○反復のあるリズムを組み合わせ、「おまつりの音楽」をつくっている。 (方法：シート・発表)</p>
			<p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○口唱歌やリズム打ちを一緒に行い、リズムを確かめながらリズムをつなげるように声をかける。</p>
終末	8分	<p>3 学習課題をまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p>	<p>○リズムをつないでみて感じたことを反復のよさとしてまとめるようにする。</p>
		<p>【まとめ】 くりかえしのあるリズムを組み合わせると、まとまりがある音楽になって、えんそうしやすくなる。</p>	
		<p>◇友だちとリズムをつなげるのが楽しみ。</p>	